

第281回原医研セミナー

第45回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2026年6月23日（火）17時30分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング)ID：890 6191 5257

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/89061915257?pwd=Uk93L2JWWDJ3dnFkYmkvSjFGN21DZz09>

Zoom パスワード：538773（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

タイトル：広島大学被爆者コホートにおける死亡構造の記述的解析：観察期間 2015 年への延長と交付バイアスの検討

発表者：広島大学原爆放射線医科学研究所 計量生物研究分野

助教 廣田 誠子 先生

広島大学原爆放射線医科学研究所が管理する広島被爆者コホート（ABS）を対象に、被爆区分別（直接・入市・救護・胎児）の死亡構造を記述的に解析した。対象は広島県・市で手帳交付を受けた法2区分1～4の全区分被爆者約20万人、観察期間は1970～2015年。間接法による標準化死亡比（SMR）を全国および広島県死亡率を基準に算出した。今回の解析では観察期間を2015年まで延長するとともに、手帳交付後早期死亡の除外（1, 2, 5年）および交付年の上限（1970, 1980, 1990, 2000）を設定した複数の感度分析を実施する。これらにより、交付直後の早期死亡バイアスおよび後年交付者の健康生存者効果がSMRの推定値に与える影響を被爆区分別・死因別に定量的に評価し、コホートの死亡構造の頑健性を検討する。

タイトル：Radiation exposure of nurses involved in I-131 Radioisotope therapy.

発表者：長崎大学原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学分野

教授 工藤 崇 先生

近年、放射性同位元素を用いた悪性腫瘍治療（核医学治療）が注目されており、昨年11月には転移性去勢抵抗性前立腺がんの治療薬：Lu-177 PSMA-617が認可された。しかし、核医学治療の普及には看護師の協力が不可欠であり、必要な核医学治療に伴う職業被ばくのデータは大きく不足している。長崎大学病院においてI-131による甲状腺癌転移治療（I-131内用療法）時の看護師の治療病棟における動線と病室内の空間線量およびその経時的推移について検討を行った。I-131内用療法時の看護師のRI病室への立ち入り時間は平均10分であった。空間線量は患者ベッドの近くで高く、投与後の時間経過と共に減衰した。I-131の物理半減期は8日であることから、この減衰は主に生物学的半減期に伴うものと考えられた。また、病室内の空間線量から推定される平均入室時間（10分間）の最大被ばく線量は約80 μ Sv/10分間であり、これを基準に入室回数を管理することで、被ばく線量の低減・管理が可能であると考えられた。

連絡先：広島大学霞地区運営支援部総務グループ（原医研主担当） 082-257-5802（内線5802）